

## 第 26 回動脈硬化教育フォーラムを開催して

2026年2月8日（日）、九段会館テラス コンファレンス&バンケットにて、第26回動脈硬化教育フォーラムを開催いたしました。当日は降雪の影響により首都圏の交通機関にも乱れが生じる状況となりましたが、そのような中にもかかわらず多くの先生方、医療従事者の皆様にご来場いただき、またオンデマンド参加も含めて本フォーラムを無事に終えることができました。ご参加くださった皆様に心より御礼申し上げます。

本フォーラムのテーマは「**ゲノム医療時代の動脈硬化診療：知る・活かす・繋げる**」といたしました。動脈硬化診療は、標準治療の徹底に加え、遺伝的背景を踏まえたリスク層別化、そして多職種連携へと確実に進化しています。その象徴的存在として、今回とくに焦点を当てたのが **リポプロテイン(a) [Lp(a)]** でした。

第1会場では、「LDL コレステロールをどこまで下げるか？」という根源的問いから議論が始まり、日本人における LDL-C 管理目標の妥当性や厳格な脂質低下療法のエビデンスが再検討されました。その流れを受け、「日本人における Lp(a)の意義」では、基礎から臨床までを整理し、日本人集団における分布とリスクとの関連が示されました。

さらに特別企画「Lp(a)の最新知見とこれからの展開」では、LEAP Study を含む日本発エビデンスを基盤に、Lp(a)が“残余リスク”の主要因子としてどのような位置づけにあるのか、今後の測定戦略や治療標的としての可能性を含めて活発な議論が行われました。また「LDL-C 管理最適化と Lp(a)測定が拓くリスク層別化」では、Lp(a)測定を臨床現場にどう実装するかという実践的課題が提示され、まさに“知る”から“活かす”への橋渡しとなるセッションとなりました。



吉田雅幸会長あいさつ



第1会場風景



ロールプレイで学ぶ FH 遺伝カウンセリングの実際

第2会場では、CLEAR試験を踏まえたベムペド酸の可能性、FHフォーカスアップデート、診断難渋例への対応など、実地臨床に直結する講演が続きました。特にFH診療においては、遺伝学的検査の適切な活用と治療介入の重要性が再確認されました。

第3会場では、飽和脂肪酸、糖尿病治療 Update、FH女性の妊娠管理、PAD/LEAD 部会報告など、ライフステージや併存疾患を横断するテーマが取り上げられました。また「ロールプレイで学ぶ FH 遺伝カウンセリングの実際」では、講義に加え実践的ロールプレイングを行い、遺伝カウンセリングが医療者と患者を“繋げる”重要な役割を担うことを体感的に共有できました。

オンデマンド配信では、市民公開講座「今日から変わる健康習慣～THE JAPAN DIETで始める心血管イベント予防～」、循環器病予防療養指導士セミナー、管理栄養士セミナー、医学倫理教育セミナーなどを展開し、専門職のみならず社会全体への発信にも努めました。動脈硬化診療は今や、脂質管理のみならず、生活習慣、薬物療法、遺伝医療、倫理、そして市民との対話を含む包括的医療へと広がっていることを改めて実感いたしました。

降雪という厳しい環境下にもかかわらず、多くの先生方が九段に集い、活発な討論が行われたことは、本フォーラムの意義を象徴する出来事であったと感じております。学術的議論とともに、職種や世代を越えた交流が生まれたことも大きな成果でした。

最後になりましたが、ご登壇いただいた演者・座長の先生方、ご参加いただいた皆様、協賛企業の皆様、学会事務局、運営スタッフの皆様に深く感謝申し上げます。

本フォーラムが、Lp(a)を含む新たなリスク概念を共有し、動脈硬化診療の次なるステージへと歩みを進める契機となったのであれば幸いです。今後も、「知る」「活かす」「繋げる」という理念のもと、本フォーラムが発展していくことを心より願っております。

第26回動脈硬化教育フォーラム会長  
吉田 雅幸



開会式集合写真



Lp(a)啓発キャラクター  
クリングル・ファミリー